

第5編 観光

～地域資源を活かしたまちづくり～

本町の観光は、交通アクセス不足や施設の老朽化、情報発信力の不足、観光客受入体制の整備など多面的な課題を抱えています。一方で、沙流川や幌尻(ポロシリ)岳の自然、トマトやびらとり和牛、そしてアイヌ文化などの地域資源は大きな魅力を備えています。これらを活かすため、交通アクセスや受入機能の強化、体験型観光の充実、多言語対応やSNSなど各種媒体による情報発信の強化、観光拠点整備の充実を図るなど、訪れる人々が安心して滞在し、自然・食・文化を複合的に楽しめる「豊富な観光資源を活かしたまちづくり」を目指します。

政策項目		主要な取組（基本施策）
第1章	観光基盤	観光基盤の整備
第2章	観光資源	観光資源の活用
第3章	観光プロモーション	観光情報の発信
第4章	観光体制	観光体制の強化



対応するSDGs

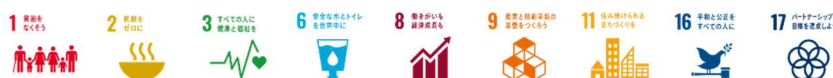
- 1** 貧困をなくそう
- 2** 質の高い雇用を創出
- 3** すべての人に健康と福祉を
- 6** 安全な水とトイレを世界中に
- 8** 働きがいも経済成長も
- 9** 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 11** 住み続けられるまちづくりを
- 12** つくる責任 つかう責任
- 16** 平和と公正をすべての人に
- 17** パートナリシップで目標を達成しよう

第1章 観光基盤

現状と課題

- ▽本町の公共交通はバス中心ですが本数が少なく、札幌や新千歳空港からの直通アクセスも脆弱なため、広域からのアクセス改善が求められています。
- ▽総合案内所や特産品販売施設が整備されておらず、観光客への情報提供と購買環境の充実が課題です。
- ▽宿泊施設はあるものの、長期滞在を促す仕組みづくりが不十分であり、その強化が課題です。
- ▽既存の観光関連施設の老朽化が進んでおり、計画的な更新が課題です。
- ▽観光情報発信や来訪者対応の拠点機能の強化が課題です。

目標



- 道外、札幌圏からの交通アクセスを拡充し、観光客が安心して訪れやすい交通環境の充実を図ります。
- びらとり温泉ゆから、二風谷コタン周辺、二風谷ファミリーランド、すずらん群生地などの観光拠点施設の充実を図ります。
- 観光客への情報提供と購買環境を充実させ、利便性を高めます。
- 長期滞在を支える仕組みづくりについて検討し、滞在型・着地型観光を推進します。
- 計画的な施設整備を行い、安全性と快適性を確保します。
- 観光情報発信や来訪者対応の拠点機能を強化し、地域観光の中核を担う体制を整備します。

主要な取組

取組No.	基本施策	単位施策名	担当
1	観光基盤の整備	交通アクセス環境の整備と拡充、びらとり温泉ゆから、二風谷ファミリーランド、すずらん群生地、幌尻岳登山関連施設の環境整備と充実	観光商工課

めざすべき目標値

指標No.	項目	現状値	R12	R17
1	広域周遊観光バスの運行	年 40 日	年 50 日	年 60 日
2	びらとり温泉ゆから利用実績	93,000 人/年	100,000 人/年	110,000 人/年
3	二風谷ファミリーランド利用実績	6,800 人/年	7,000 人/年	7,500 人/年
4	幌尻（ポロシリ）岳登山者数	2,000 人/年	2,300 人/年	2,600 人/年

関連する個別計画

- 平取町観光振興ビジョン

第2章 観光資源

現状と課題

▽本町にはアイヌの伝統文化や義経伝説などの歴史・文化をはじめ、特産品であるトマトやびらとり和牛など代表される農畜産物のほか、幌尻（ポロシリ）岳やすずらん群生地、キャンプ場などの自然を体感できる豊富な観光資源があり、これらの多様な地域資源を効果的に活用した観光コンテンツの構築が課題となっています。

▽トマト、びらとり和牛などの豊富な食資源を活用した誘客イベントや道外での知名度向上が課題です。

▽幌尻（ポロシリ）岳を最高峰とする日高山脈襟裳十勝国立公園を活用した付加価値の向上が課題です。



目標

- 地域資源を活かした誘客イベントの実施や、都市部でのPRイベントへの出展など、多様化する観光ニーズを勘案しながら実施内容の充実を図ります。
- 地域の自然や文化に深く触れる着地型観光プランを展開し、知名度の向上や交流人口の増加と地域の活性化を推進します。
- 周遊イベントの充実と継続により滞在時間を延長による町全体の観光消費額を拡大します。
- アイヌ文化や食、自然などの地域資源を効果的に活用します。

主要な取組

取組No.	基本施策	単位施策名	担当
1	観光資源の活用	地域資源を活用した誘客イベントの充実、町内周遊コンテンツの強化、着地型観光コンテンツ制作	観光商工課

めざすべき目標値

指標No.	項目	現状値	R12	R17
1	主要イベント集客数	11,000人/年	13,000人/年	15,000人/年
2	町内周遊イベント参加人数	1,300人/年	1,500人/年	2,000人/年

関連する個別計画

- 平取町観光振興ビジョン

第3章 観光プロモーション

現状と課題

▽本町には特色ある豊富な観光資源があり、各メディアを活用した告知やイベントなどでのPRを行っていますが、観光案内所などの総合的な窓口となる拠点がなく、来訪者に継続した観光情報が発信されていないため、地域や関係機関と情報共有を図りながら効果的に情報を発信することが課題となっています。

▽道外における地域資源や特産品の魅力発信の拡充が必要です。

▽デジタル情報発信（SNS、多言語対応ホームページなど）の充実が必要となっています。

▽外国人を含む観光客の視点に立った情報発信が十分ではなく、検索性や利便性にも課題があります。



目標

- 観光情報を効果的に発信するため、各種メディアの活用やイベントでの積極的なPRに取り組むとともに、幅広い情報発信を推進します。
- 首都圏や都市部における効果的なプロモーションにより地域の魅力発信を継続します。
- 情報の多様化に伴い SNS や WEB などの各種媒体を効果的に活用しながら、海外の来訪者も視野に入れた多言語での情報発信を強化します。
- 公式キャラクター「ビラッキー」を積極的かつ効果的に発信することでプロモーション効果の向上を図ります。

主要な取組

取組No.	基本施策	単位施策名	担当
1	観光情報の発信	観光情報受発信の強化、 首都圏や都市部における観光プロモーションの実施 SNS など各種媒体を活用した効果的な情報発信 ビラッキーを積極的に活用したプロモーション	観光商工課

めざすべき目標値

指標No.	項目	現状値	R12	R17
1	首都圏や都市部における観光プロモーションの実施	1回	2回	3回

関連する個別計画

- 平取町観光振興ビジョン

第4章 観光体制

現状と課題

- ▽北海道では、一次産業よりも観光産業の方が高い経済効果を生み出していることから、観光施策が重視されています。一方で、観光ニーズは多様化・高度化しており、観光客のニーズに応じた魅力づくりを進め、リピーターの増加につなげるためには、観光関連団体の強化が課題となっています。
- ▽観光に訪れる目的の多様化により、行政をはじめ関連団体が一層連携を強化することが重要となっています。
- ▽体験型観光コンテンツに対応できる専任ガイドが不足しており、ガイド人材の体制構築が必要となっています。
- ▽多言語対応やキャッシュレス決済、Wi-Fi 環境の整備など、インバウンド受入体制の拡充が求められています。
- ▽広域連携による観光コンテンツの展開など、広域観光体制を効果的に機能させることが重要となっています。



目標

- 本町の観光事業の中心となる観光協会の機能強化を図るため、観光事業の担い手や自然・文化ガイドなどの人材を育成し、地域・行政と情報共有し連携を図りながら観光客の多様なニーズに応えるための施策を構築します。
- 体験型観光コンテンツに対応できる専任ガイドを育成・確保し、多言語対応や専門知識を備えた人材体制を構築することで、質の高い観光サービスの提供を図ります。
- 町単独だけでなく近隣町と連携して広域的に地域資源を活用しながら、知名度の向上や交流人口の増加と地域の活性化を推進します。
- 多言語対応や Wi-Fi 環境の整備などにより、快適で利便性の高い受入体制を構築することで、インバウンド観光客の満足度と来訪促進を図ります。

主要な取組

取組No.	基本施策	単位施策名	担当
1	観光体制の強化	観光推進体制の強化・連携、広域観光連携、ガイド人材の育成・確保	観光商工課

めざすべき目標値

指標No.	項目	現状値	R12	R17
1	広域観光イベント参加人数	2,500人	3,000人	3,500人
2	ガイド人材の育成・強化	実証・実践	実践	拡充

関連する個別計画

- 平取町地域公共交通計画